

三三二	〇八三五	<p>午前六時ノ位置石室崎燈台ノ南西八湮快晴ニテ 北々東ノ風十七米白波荒ルルニ動搖極メテ 微狩 聖上陛下ニ昨夜御安眠遊ハヤレ天機麗ク拜奉ル</p>
-----	------	--

五御用品運搬格納等項

月日	場所	陸上	海上	個數	記	
七月六日	横須賀	門國運搬貨物白 勸率 至遠見棧橋 (海軍作務員)	港務部海五各運 三〇噸一運三〇噸 百遠見棧橋 至本航(海軍作務員) 港務部海五各運	大三五 中五〇 小八三	四〇	記 事 前卸荷物(衣類)重量八 一三三進大船五標準外 大約三反五寸十貫以外 中船二反五寸十貫以外 小中下物並各種小口類
七月七日	横須賀	同古 百取降車口前 至遠見棧橋 (海軍作務員)	港務部海五各運 一余積一 百遠見棧橋 至本航(海軍作務員)	中六 小九〇	四〇	同 右
七月八日	佐世保	維在保海軍團用 港務部海五各運 至本航(海軍作務員)	港務部海五各運 一雙 港務部海五各運 至本航(海軍作務員)	中九 小六九	二〇	同 右
七月九日	佐世保	同 右	港務部海五各運 一雙 港務部海五各運 至本航(海軍作務員)	中六 小六九	二〇	同 右
七月十日	鹿見島	貨物運搬車三台 至本航(海軍作務員) 港務部海五各運	港務部海五各運 一雙 港務部海五各運 至本航(海軍作務員)	大五 中五 小六	二〇	同 右
七月十一日	鹿見島	同 右	港務部海五各運 一雙 港務部海五各運 至本航(海軍作務員)	中六 小六	二〇	同 右

御荷物其他格納所

品名	個数	格納所	同工設備	記事
大膳課御調理器具其他	三七	高板倉龜倉合釣後部	拭淨消毒遮塵幕張ル	上記、如、格納所、管内者
侍従職用品一部	七〇	下中板十三区後部	拭淨消毒、支柱敷板用意	拭負、ヨリ、後部、入替、ヒラ
持醫寮用品	一六	同 中部	同	行、ヨリ、以、格納、個数、ハ
侍従職用品一部	六二	同 釣床格納所	拭淨消毒遮塵幕張ル	多少相違、シ、ト、モ、ナリ
大膳課御用品一部	一五	冷蔵 庫	消毒、拭淨	
供奉員用品一部	五	高板倉釣床後部、近	拭淨消毒、工、版、手、板、圍、与、設、分、目、中、板、張、ル	
供奉員用品一部	一〇	各公私室		

今日	十月三日
横須賀	横須賀
港務部洗機三隻 自本艦 至砲房後橋 港務部及海兵團 作業員	港務部洗機一隻 自本艦 至砲房後橋 港務部及海兵團 作業員
大三五 中五三 小八六	中七一 小七二
四〇	四〇
同	同
右	右

1529

第四
各科記事

軍艦榛名豫定航路表

百横須賀至佐世保

昭和6年11月8日

日時分	航路交又点			航路	航程	航程累計	記事	
	回標	方位	距離					
11-8-1900	出			適宜	2.0	2.0	使用速力十四節	100
	防波堤東端Lt	280	0.6	115	3.5	5.5	11月8日 月齢 22.6	日出 0637
	第三志保 Lt	249	0.8	157	1.8	7.3	日没 1645	日没 1210
	観音埼Lt	240	1.2	185	9.0	16.3	日出 0501	都井岬 高潮時 0615
1325	剣 埼 Lt	292	3.9	240	20.5	42.8	横須賀 低潮時 0945	高潮時 1210
1320	風早 埼 Lt	145	7.1	215	26.0	68.8	依潮時 1530	佐田岬 高潮時 0700
1520	神子元 島 Lt	310	3.0	255	100.0	168.8	下田 高潮時 1540	依潮時 1255
9-0020	大王 埼 Lt	325	12.5	235	71.0	239.8	高潮時 2215	坊岬 高潮時 0710
	極野 埼 Lt	325	9.0	255	6.7	246.5	大王埼 低潮時 2235	依潮時 1305
0620	潮 岬 Lt	345	2.2	261	80.5	327.0	9日高潮時 0520	高潮時 0755
1300	室戸 埼 Lt	350	3.5	242	85.0	412.0	9日 日出 0620	依潮時 1355
1945	叶 埼 Lt	20	14.0	222	100.0	512.0	日出 1710	相浦 高潮時 2000
10-0400	都井 岬 Lt	330	6.0	242	42.4	554.4	潮岬 高潮時 0520	高潮時 2000
0720	佐田 岬 Lt	337	3.0	303	30.0	584.4	高潮時 1110	低潮時 440
0930	坊 岬 Lt	33	2.2	308	37.2	621.6	依潮時 1115	
1215	釣掛 埼 Lt	70	9.6	355	82.4	704.0	室戸埼 低潮時 1710	
1800	大立 島 Lt	320	3.7	20	7.4	711.4	高潮時 1710	
1830	伏 瀬 Lt	2610	4.3	45	4.7	716.1	足摺岬 高潮時 1720	

1530

百鹿見島 至横須賀

昭和 6年 7月 19日

日時小	航路交叉点			航路	航程	航程 累計	記 事
	目 標	方位	距離				
11-19-1715	⚓						使用速力十四節 11月19日
	沖小島 (A)	85	1.7	175	3.1	3.7	2/0
	知林島 (703)	246	2.5	135	17.8	20.9	月出 9.2 日没 1718
	百岩岳	307	3.5	195	7.1	28.0	鹿見島 高潮時 1605 低潮時 2225
	立目埼	70.7	2.0	220	6.0	34.0	御前埼 高潮時 2235 低潮時 0855
	佐田岬 Lt	155	2.7	180	6.8	40.8	佐田岬 高潮時 1335 低潮時 2135
2045	横田岬 Lt	320	5.6	115	6.4	47.2	下田港 低潮時 0840
21-0430	御前埼 Lt	322	16.5	62	440.0	487.2	横須賀 低潮時 0830 高潮時 1415
	神子元島 Lt	340	3.0	90	31.0	518.2	20日 日没 1633 月没 0158
	大島 Lt	137	3.5	43	25.8	544.0	朝岬 高潮時 1445 低潮時 2145
1130	剣埼 Lt	315	4.8	55	26.0	570.0	
	観音埼 Lt	240	1.2	5	10.9	580.9	
	第三海堡 Lt	244	0.8	337	1.8	582.7	
	防波堤端 Lt	280	0.6	295	3.5	586.2	
1330	船			適宜	2.0	588.2	

1531

月	日	曜	行動所	午前	午後	別科時	日没後
十一	八	日	一〇。横須賀發	一。御乘艦諸儀礼 二。港作業		聖歌	
九	月	月	航海	天覽作業	公 公	体育別科	
〇	火	火	二三。佐保港外假泊 二三。佐保港外發	各科補修教育 御乗艦諸儀礼	公 上	入港作業 試技 体技	
二	水	水	八。佐保港外發	御乗艦諸儀礼	外核 試技	試技 体技	
一	元	木	二五。鹿兒島發	艦内整理	御乗艦諸儀礼	試技 体技	
二	〇	金	航海	各科補修教育	令 上		
二	土	土	三三五。横須賀着	補修教育	二。入港作業 三。御乗艦諸儀礼		

四
至百十月拾日 並 至百十月十九日

横須賀行艦作業補修

作業

(三) 實施經過概要

(往航)

一隊内通信ハ天候極メ良好ニテ信辨通信終始容易ナリシ以テ出港四時後ヨリ當時連絡ヲ中止シ必要ニ應ジテ令ヲ以テ配員シテ本通信ハ概ネ補助系中継信ノミナリキ警備艦ハ八會合ニ時ニ八前ヨリ連絡ヲ開始シ有効ニ活用セラレタリ

二通信系通信

出港後午前六時横須賀文信區ヲ去リ吳文信區入り同日午後四時吳ヲ去リ佐在保文信區ニル横須賀及吳ト通信ハ比較的閑散(對横發信四週受信一通對吳發信三週受信三週)法吉保ト通信ハ稍稀薄(發信五週受信十四週)シテモ杜絶程度ニ至ラズ通信狀態ハ各所共極メ良好ニテ終始一五吉以下送信機ニテ充分ナリキ

三對海岸局通信

横須賀出港ト同時ニ銚子局ト一四三KCニ連絡ヲ取リ通信法ニ關シテ如協定ノ通信ノ有無ニ拘ラズ毎時ノ三ノ八御召艦ハ一五五KC銚子ハ一三三KCニ連絡ヲ行フ其他ノ時間ハ双方共一四三KCニ常時待受隨時通信ノトトシ出港后十四時間

連絡ヲ保持シ其ノ間通信發信五通著信五通

第二日午前二時銚子圈内ヲ去ル約四時間前(潮岬、東百四十哩、地点)ニ潮岬局ト連絡シ毎初時於テ標名ハ三五ノ潮岬一四九ノ銚子ニ連絡其ノ他ハ一四三ノ銚子無休聽シトト定メ尔後十八時間連絡ヲ保持シタルニ發信ニ通受信ニ通ニ通ニ通ニス其ノ間下津井大分每嶋鹿兒嶋大瀬崎ノ各局ハ一四三ノ銚子以テ連絡ヲ試ミテレ何モ通信可能トナリタルヲ以テ潮岬沖通過後ハ發信ハ其ノ行先ニ依リ任意ノ局ニ送ルコトトシ受信モ之ヲ有スル局ヨリ直接受信ノトトセリ是等諸局ノ通信量左ノ如シ

局名	下津井	大分	鹿兒島	大瀬崎	解嶋	銚子	潮岬	計
發信	〇	四	一	三	〇	五	二	二五
著信	七	〇	一	九	〇	五	二	二四

四東京佐世保ノ主系通信直接受信

行幸並供奉關係通信ノ迅速受信及艦船行動諸情報就中時局情報ノ直接受信ニ努メ大ニ益スル處アリタリ

五 往航中通信量表、如シ

種類	送			受			計	記事
	部内關係	宮内關係	内閣關係	部内關係	宮内關係	内閣關係		
五〇以下	一九	八	四	二〇	一	二	三九	御用待從職行幸事務官會 海軍大臣秘書官兼海軍醫務長會 御用待從職行幸事務官會
百以下	一四	四	一	八	三	五	一八	
百以下	六	六	二	四	二	六	一八	
五百以下			一			五	二	
五百以上						二	三	
計	三九	一八	八	三二	八	二二	三九	

六 整理及艦内通信

部内通信ハ電文ヲ翻譯作製ヲ行ヒ受信文ハ三通ヲ淨書シ大臣秘書官軍務局長各一通ハ艦内持廻トス

御用及宮内關係通信ハ宮内判任官事務室、内閣關係通信ハ同書記官ニ電文、儘取次ヲシテ届ケム發信ハ概テ兩判任官直母電信室ニ持来ル時局情報ハ四通ヲ翻譯
 中書大官秘書官軍務局長宮内判任官事務室及艦内持廻ト用トス
 新聞紙報ハ各公室事務室等ニ新三十部ヲ騰寫配布ス

(復航)

(百十月十九日午後五時十五分鹿兒島)
至 三十一日午後一時三十分横須賀

(一) 鹿兒島於此御乘艦三十余前左配員ヲ行フ

八四K(佐電) 六三東京(一四三K(海岸局) 五七五(隊内)

是ヨリ先鹿兒島局ト連絡シ左記要旨事務報ヲ送リタリ

御召艦出港時刻速方航路概略(毎六時予定艦位)横須賀入港時刻又文信区ニ

入ルキ予定海岸局名

(二) 出港后部内通信系ハ足摺崎沖迄在在保在リガ通信狀況ニ鑑ミ此地点ニ直ニ

横須賀文信區入リ一五吉送信機ニ文信容易ナリキ

海岸局文信區ハ鹿兒島大分潮岬鉾子順序ニ當該圖ニ入ル予定ナリ出港

後間モ方下津井角島大瀬崎等ニ加入シ来リ便宜連絡ヲ保持シルモ文信

主トシ鹿兒島潮岬及鉾子ト實施セリ

(三) 東京佐世保ノ主通信系配員ハ特局情報並海軍次官宛電報直接受信ニ

ヨリ多大ノ便宜ヲ得タリ

(四) 通信量

送部内	種類	字數						計
		五〇以下	百	三百	五百	七百	千以上	
一	一	三	三	一	〇	〇	〇	八

(五) 所見

本任務中對手局所ハ非常ニ緊張セシモノノ如ク殊ニ海岸局ハ何レモ御召艦トノ交信ヲ競フ有様ナリシヲ以テ通信實施ハ迅速且容易ニ行ハタリ
 部内通信系通信ハ各所共常時連絡ノ協定ヲ爲シタルハ通信量ノ如何ニ拘ラス適切ナリシモノト認ム
 電信員ノ當直ハ二乃至三直ニテ遂行セリ尚完壁ヲ期センハ人員及兵器(送信機一五吉以下一組及八七式受信機二型)ノ増加ヲ要ス

情報等	信 受				信	
	内閣	外務	宮内	部内	外務	宮内
	一		三	一三	〇	四
		一	五	七	〇	二
	一	二	三	三	一	五
	一			一	〇	〇
		二			〇	〇
		一			〇	〇
		三			〇	〇
	三	九	二	二五	一	九

四 機關科記事

一 準備

十月二十五日 橫須賀ヨリ 館山 面航シ 十月二十六日 橫須賀ニ 歸港ス 館山並
 橫須賀ニ 於テ 主復水器 油冷却器 水壓試驗 並内外部掃除 諸補助
 機械 解放 檢査等ヲ 行ヒ 最後ノ 諸準備ヲ 完成ス
 十月二十五日 浦賀水道 標柱間ニ 於テ 十四節ニ 對スル 航走速力 試驗ヲ 施行シ
 全速力ニ 對スル 回轉數ヲ 檢測ス

二 經過 概要

二十日 午前十時 主機械 運轉終了 爾後 即時 待機 状態トス
 (艀取 機械ハ 全時 試運轉 終了) 十時三十分 陛下 御來艦 被遊 正午 出港
 強速(十四節)ニ 在 保ニ 向テ
 九日 午前八時四十分 主機械 回轉 終了 十四節 增加(一天ノ 速力 十四節半)シ
 十日 午前九時四十分 強速トシ 午後五時三十分 在 保 港外ニ 渡泊ス
 十一日 午前七時十五分 假泊地 出港 今八時四十分 在 保 港 入港
 十三日 午後四時 出港 兼 速ニ 鹿兒島 高トシ 十四日 午前九時十分 入港ス
 十四日 午前七時十分 鹿兒島 出港 強速ニ 橫須賀ニ 向ヒ 午後五時三十分

三 使用速力並燃料

原速二十日午前。時五分差是今日時。原速午後一時五分横須賀支港。二時十五分陸下至廣前御機成室御巡覽機閣長御説明申上。二時十分御退室遊サレ。御退室遊特別任務を終了ス。二十日午後二時五十分本行動中機閣各部極々良態ニシテ何等故障缺損チ乘員一同光榮了任務感激ヨリ合カテ盡シ任務遂行ニ努メタリ

月日	場所	速力	全使用時間	使用燃料
一月八日	百横須賀	十四・五	二二 六—— 三—— 六—— 一五	七六〇・〇
一月九日	白尾見島	一四・〇	三〇 —— —— —— 二	六一三・〇
一月十日	至廣前御機成室	一六・〇	一六 —— —— —— 四一	一一九〇・〇
一月十一日	至横須賀	一二・〇	一一 —— —— —— 二三	——

四 特別任務中 特ニ考慮セシ事項

一 一般

- (1) 副直將校ハ毎直必ズ一回以上機關室各部ヲ巡視シ機關運轉状態ノ確認當直勤務ヲ監視ヲ勵行ス
- (2) 掃除服着用ハ機關室ノミトシ陛下御乘艦中ハ特ニ清潔ヲモテ着用ス
- (3) 主要弁ノ開閉ハ准士官以上監督下ニ熟練セル一等兵以上ニ行ハシム
- (4) 航海直中毎直一回重油タンクニ漏洩有無ヲ調査シ艦橋ニ報告シ午後一時輕質油庫漏洩有無ハ状況ヲ調査ス

二 機械部

- (1) 機械室出入口ハ前機室右部側ヲ使用シ右機室出入口ハ防水扉ハ特ニ必要ナル場合外閉鎖ス
- (2) 飛取機械ハ万一場合ヲ考慮シ使用セザル一台ハ毎直一回燻機シ疏水ヲ排除ス
- (3) 飛取機械試運轉ハ陛下御乘艦中ハ主機械試運轉時施行ス

三 罐部

- (1) 年使用壓力方ハ一八匹ニ一定ス
- (2) 使用年數ハ專燒年六至十併用シ應急用トシテ混燒年ハ總年汽釀

準備ヲ完成シ予ノ配員ヲ定メ置ク

(三)補助給水唧筒ハ緩轉シ應急用トス

(四)火災ニ對シ方善ク注意ヲ拂フト兵隊火裝置ハ常ニ整備ス

(四)電機部

(一)特別電路員ハ下士官ニ名ヲ以テ編成シ一名宛特別從兵室ニ當直シ必要ナル補習要員ヲ準備シ後部ニ於ケル電路並電氣諸裝置ノ取扱補習ニ當ラシム(服裝第一種軍裝)

(二)使用發電機械

前部發電機室トシテ使用シ一台ハ常ニ無負荷規定電壓ニ運轉シ使用發電機械故障ノ際ハ直ニ白熱電灯專用候用ス

(三)地絡部調査ハ晝間ニ行ヒ夜間ハ止ム得ル場合ノ外之ヲ禁ズ

(四)右區白熱電灯自動接斷器ハ管制電路不具合ノ際直ニ右區所管制ヲ行ヒ得ル如ク準備ス

(五)配電盤當直員ヲ三名トス(電路員當直一名增加ス)

(六)電機長ヲ航海當直ヨリ除キ電氣裝置全般ヲ監視セシム

(五)補機部

(一)特別雜用蒸氣係ニ名(下士官一名)ヲ編成シ一名宛輪番各浴室食器室

(六)特別雜用蒸氣係ニ名

(下士官一名)ヲ編成シ一名宛輪番各浴室食器室

月日	名	御用	供養親任官	供奉官	士官	官家其他	合計
一一	八	二	二	〇	三	三	一〇
一一	九	二	〇	〇	二	三	一七
一一	〇	二	二	〇	一	三	一〇
一一	二	〇	〇	〇	四	五	二九

水消氷量(枚数)
 軍醫科「ル」ヨリ「ル」ヨリ「ル」ヨリ
 軍醫科「ル」ヨリ「ル」ヨリ「ル」ヨリ

横須賀出港前本艦「一」三枚(一枚三貫)製氷格納「外」三「〇」貫ヲ購入シ
 氷庫「納」メ陛下御乗艦后、御用氷ヲ製氷「一」三枚事シ製氷「一」三枚事シ
 製氷罐「六」常「四」枚以上、氷ヲ貯藏「置」ク様「モ」リ(製氷罐「六」氷取出部度
 軍醫科「ル」ヨリ「ル」ヨリ「ル」ヨリ

六製氷機械並冷却機械
 (一)製氷機械

后部煖房諸装置、取扱補習「當」ラズ(服装等一種軍装)
 (一)御室近「タ」后部諸補助機械、已「レ」得「ル」外使用ヲ禁「ル」ズ
 (二)直配置「テ」前部百噸御筒堂「當」直「セ」ム
 (三)御筒當直員「ト」シ「テ」二名ヲ以「テ」諸御筒ノ操作「當」ラズ、外一名ヲ傳令員「ト」シ「テ」

(一) 冷却機械

火薬庫、冷却ハ砲術科、請求ヨリ攝氏二十五度ニ達スレバ昼夜ノ間ハ冷却ヲ行ヒ
庫内温度一九乃至二〇度ニ達スレバ冷却ヲ停止セリ機械使用時数左ノ如シ

二九	二八	二七	二六	二四	二〇	一九	月日	使用冷却機械	使用時数	冷却火薬庫	前部十五種火薬庫	合計	二七	二六	二五	二〇	一九	二
全右							一	一	二	四	四	二	一七	〇	三	二	六	〇
四	三	二	二	四	一	二	使用冷却機械	使用時数	〇	一	四	一	七	〇	一	二	〇	〇
全右							二	二	二	二	二	二	〇	〇	〇	〇	〇	〇
八	五	八	五	八	五	八	冷却火薬庫	使用時数	一五	四	四	二八	一	二	二	二	二	〇
全右							二	二	二	二	二	二	三	〇	四	三	四	〇
八	五	八	五	八	五	八	冷却火薬庫	使用時数	一五	四	四	二八	一	二	二	二	二	〇
全右							二	二	二	二	二	二	八	一	〇	九	一	二

月	飲料水	生水	計
九	一七〇	〇	一七〇
一〇	五二二	二五六	七五八
一一	四三九	八四	五二三
計	一一三一	三二〇	一四五一

九月以来、蒸溜量(噸)左ノ如シ

蒸化器蒸溜器
 九月二十五日清水槽清水管清毒以來、一般飲料水、全部蒸溜水ヲ
 使用之時々、軍醫科ニ於テ分析試驗シテ、全期ニテ、御用飲水、佐吉保ニ
 一回蒸化器附屬眞水唧筒ヨリ採リ

(終)

五、天覽作業
各科作業

順序	作業	施行場所	所要時間
一	發射管操法	三番發射管	四分
二	机上測的机上射擊	後甲板	十分以内
三	副砲点的教練	十三番砲(最裏)	四分
四	十五種砲裝填教練	最上甲板右舷	三分
五	當官ノ意欲作業	流場(右舷右舷)	三分
六	各種砲戰教練(三响)	最上甲板右舷	三分
七	手旗原劃教練	前甲板右舷	三分
八	十能操法(約手名)	前甲板左舷	三分
九	裝創表右顧頭部控創表 右上げ熱傷(敵ノ手競技的)	最上甲板左舷後部	三分
一〇	陸戰隊教練	後甲板	約十分

主計科

十一月九日午前九時迄ニ最上甲板流場側ニ左記ノ通準備シ
天覽ヲ辱フセリ

食 晝						食別
ス イ ラ ム ハ						名稱
(カレシ)	(五粉)	人参	ハム	割麦	白米	材料
若干	若干	〇五〇	〇四五	〇六〇	一八〇	一人量額
		〇六〇	九三〇	一〇一	三三三	單價
〇〇三	〇〇一	〇〇三	〇四一	〇〇六	〇二三	代 價
		二〇、五〇	一一五、三〇	二一〇、〇〇	六三八、三〇	カロリー

當日献立表

三三二四、八六カリ

主計長左記要領ヲ御説明申上テ約ニ分ヲ要ス

一 別紙、諸表
 一 應急烹炊装置 (醬油樽ヲ用ヒ蒸汽ヲ炊飯装置)
 一 本艦搭載中ノ各種罐詰
 一 野菜、切方各種
 一 當日ノ兵食ニ食分 (兵員食器碗、盛り)
 卓子ヲ置キ白布ヲ覆ヒ次ノ順序ニ配列ス
 流場ノ前面及中央階段ノ通路ヲ帆布ヲ以テ覆ヒ右舷側ニ

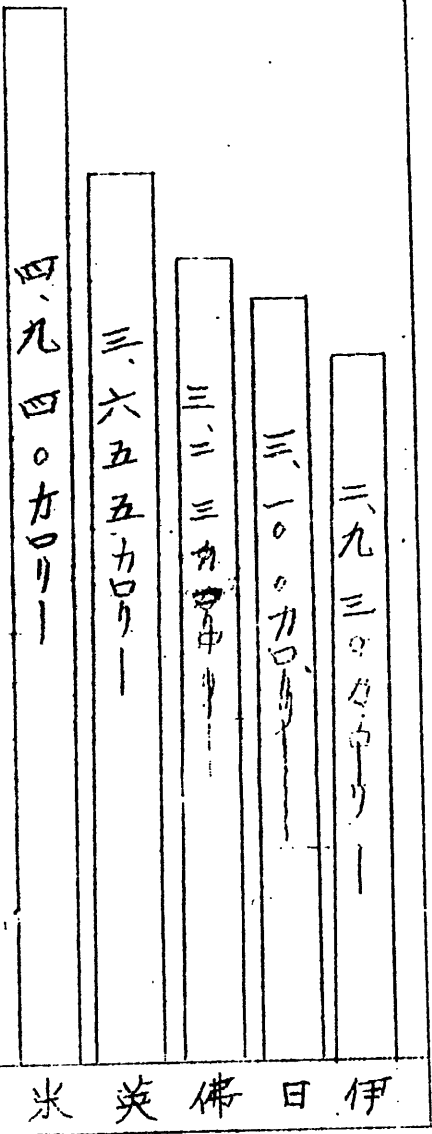
1547

三九.五七一一)食夕

(一)口力八六.二四一、一)

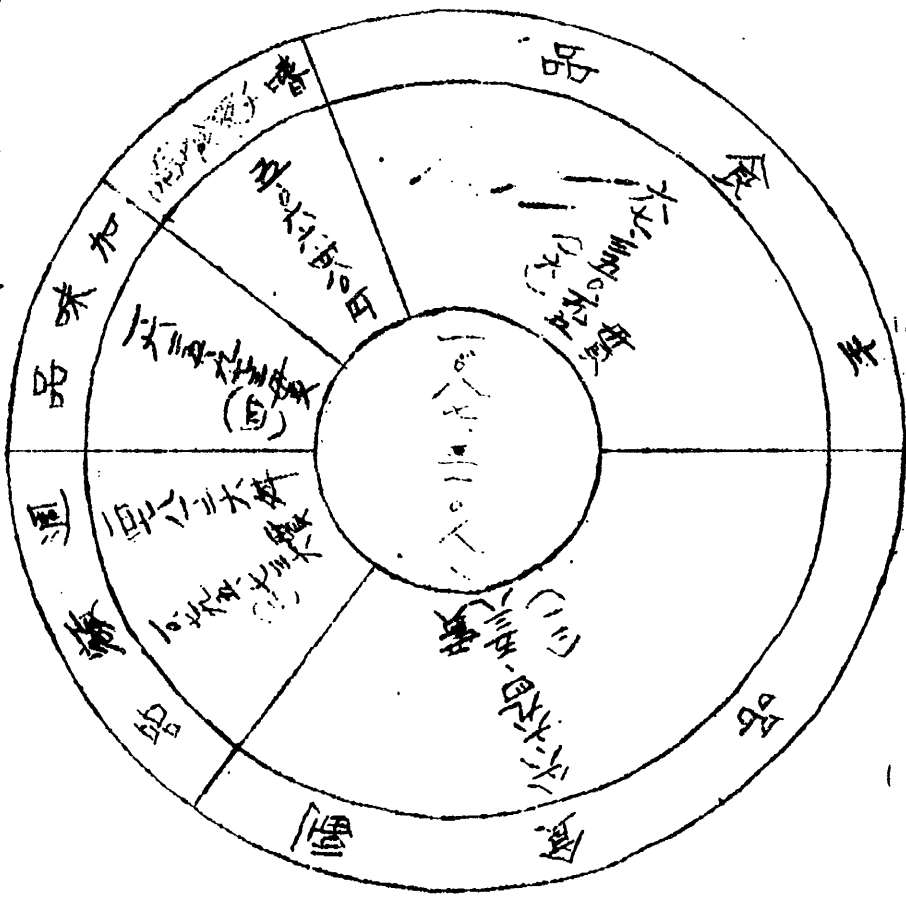
煮			煮			飯		計	漬物	汁								澄
黄双	醬油	馬鈴薯	黄双	醬油	マス	割麦	白米		糟粕漬	(味菜)	(花麴)	塩	醬油	地葱	大根	人参	鶏卵	
〇一〇	〇〇二	二二〇	〇一〇	〇〇五	一八〇	〇六〇	一八〇		〇四〇	若干	若干	〇五	〇七	〇六	〇六	〇五	〇五	
二五〇	一五	〇五	二二〇	一五	三三〇	一〇一	三三		二〇〇			〇六	一五五	〇五	〇四	〇六	六五	
〇〇二	〇〇一	〇九	〇〇二	〇〇一	〇四	〇六	〇三三	三八	〇八	〇五	〇四	〇〇一	〇〇一	〇〇三	〇〇二	〇〇三	〇三	
								二四六六八	二八四〇					一一三	一五五〇	一〇一〇	一〇一五	

食糧艦軍海國大五



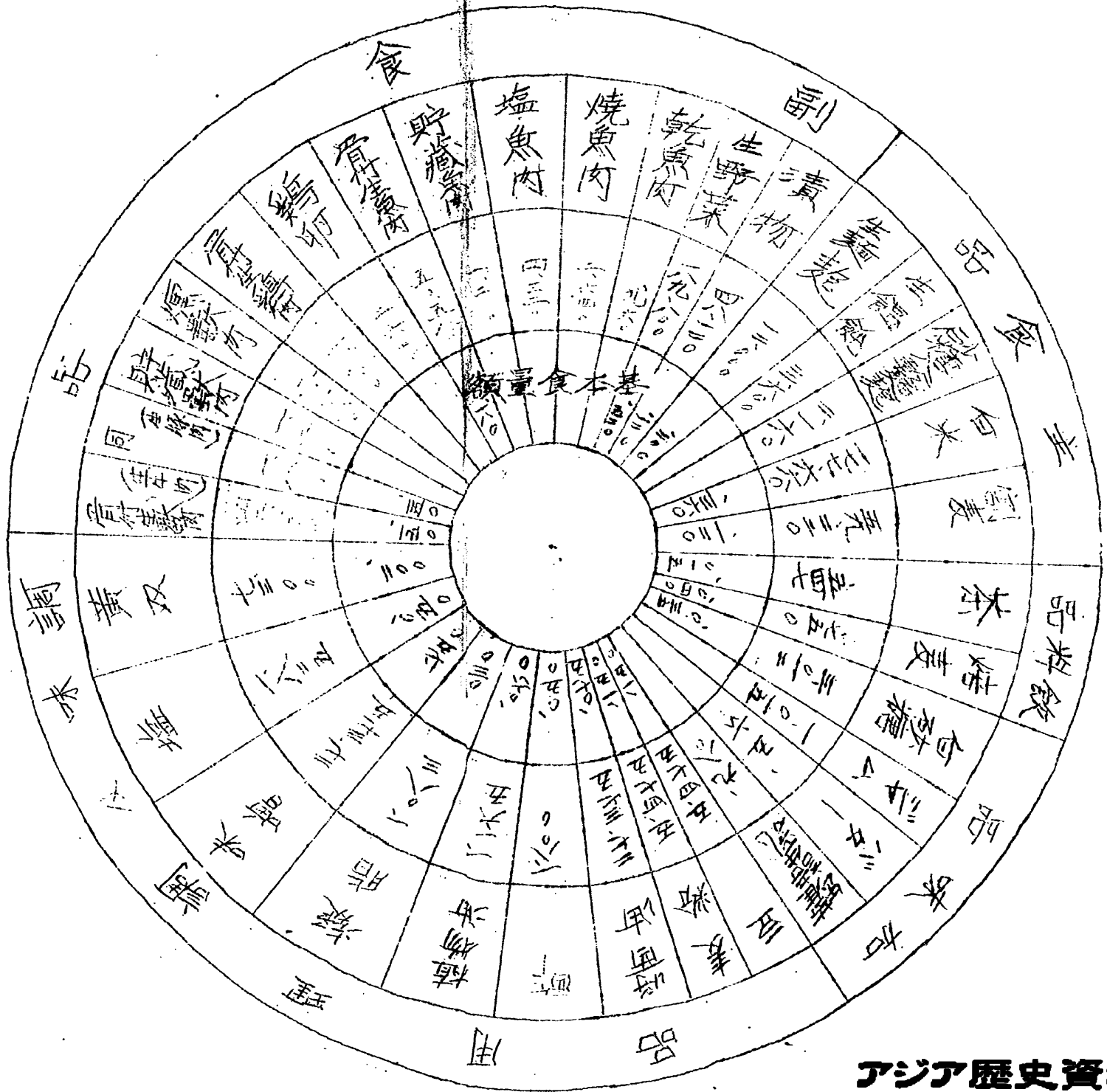
一日総計	朝食 (一日平均六〇〇)						計	漬物
	汁	味噌	飯	白米	割麦	味噌		
		漬物	蕎麦	味噌	飯	白米		大根漬
		漬物	若干	〇七五	〇六〇	一八〇		〇六〇
		〇九〇		一〇五	一〇一	一三三		〇五五
二七五	〇四九	〇四〇	〇〇五	〇〇三	〇〇八	〇〇六	〇〇三	〇〇三
三三三	一〇〇	一三〇		三六八	二九二	一一〇		八四〇

金櫃森名昭和五年産糧食米等出立及入倉入真込数



十五噸倉庫三約平三輛 () 内数字ハ倉庫ニ核算シテノ概数

一頓半積「ラック」十分一七



兵員一人一年ニ要スル糧食品糧額及基本食量額

應急烹炊

一 所要時間

三時間半

1. 工作

蒸汽管及接手
空樽装置

三時間
二十分

2. 烹炊

米麦庫出
研米
炊飯

二十分
十分
四十分

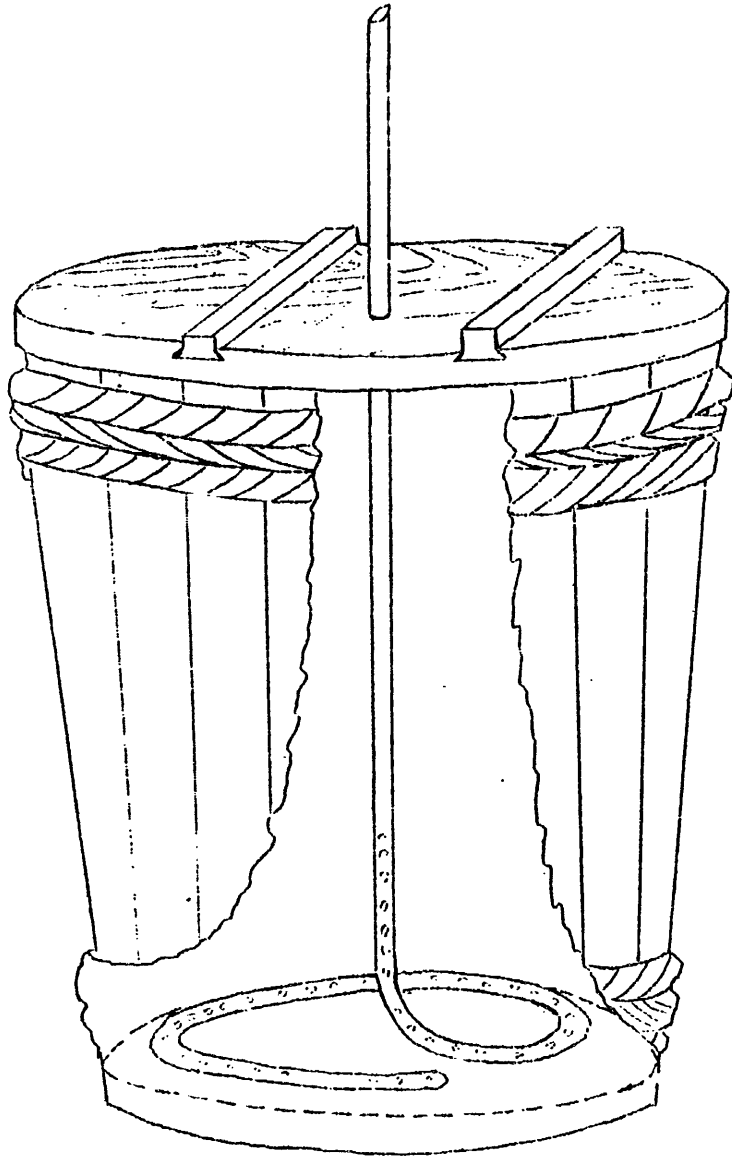
二 容量

一斗樽十五分

白米 一斗八合
割麦 七合

總員分ヲ炊飯セ下ルニ六四斗樽十五個ヲ約四時間半ヲ要ス

應急烹炊裝置圖



1552

天覽武技相撲、試合實施要領

- (一) 下士官劍道
- (二) 準士官以上劍道
- (三) 下士官銃劍術
- (四) 異種試合
- (五) 下士官柔道
- (六) 準士官以上柔道
- (七) 相撲

七組
一八組
一四組
十一組

試合名簿別紙通 (聖卡介、美濃紙、毛筆にて清書)

二、場所

劍道及銃劍術、後甲板右舷艦長昇降口附近同所ニ於テ又柔道及相撲、後甲板右舷士官室昇降口附近ニ於テ行フ
但シ柔道場ト相撲場ト其ノ疊ヲ接續セシメ其後方ニ柔道場充ツ
至座ニ劍道及銃劍術場合艦長昇降口附近ニ於テ右舷向、柔道

相撲ノ場合ハ士官室昇降口附近ニ於テ艦尾向ニ定メラル

三 試合

準士官以上試合ニ本勝負其他ハ一本勝負トス

審判各部体育補助官異種試合ニテハ体育主任ヲ行フモノトス

四 敬禮

試合位置ニ就キ各個軍級姓名ヲ名乗リ次テ玉座ニ向ヒ最敬禮

ヲ行ヒタル後試合者相互間ニ敬禮ヲ行フ

テ玉座ニ向ヒ敬禮ヲ行フ

五 設備其他

(一) 御臨場十五分前迄ニ試合場全部ヲ整備ス

(二) 御臨場十五分前迄ニ見學者ハ總學務課置就

(三) 異種試合終了後玉座ヲ右舷ヲ左舷ニ御変更遊バサル

(終)

六經費關係

特別任務爲之特要之經費左記ノ通

計	款		項		目		節		金額		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
			軍事費	雜給費	内國旅費	出張旅費			三〇	二〇〇	特別任務旅費一、一〇〇 副官俸入旅費二四、一〇〇
			艦營費	雜給費	接待費				四〇	〇〇〇	
				艦營用品	雜給費	備給			三〇	〇〇〇	副官名目給當(手入別分)
					消耗品				五〇	二〇〇	冷蔵用炭(三費)(十費)(四)

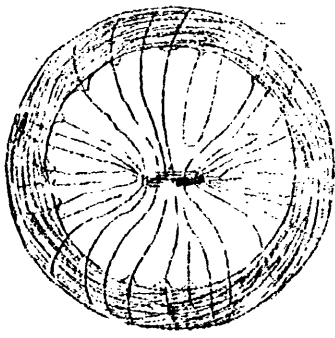
1556

第五雜件

從兵識別一覽

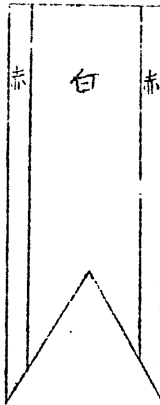
親任官從兵

判任官從兵

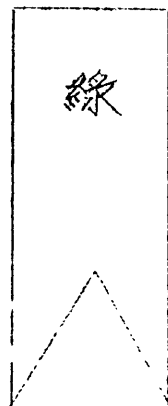
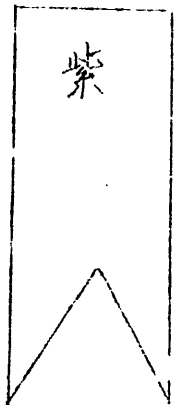


特別從兵並
電路補機部員

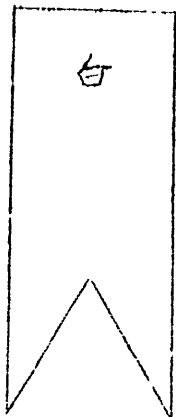
白



勅奏任官從兵



雇傭員世誥係



◎佩用 注乳下ニ着ス

二 盆栽

一 御座所

杜松高一尺位 巖ニ根ヲ盤セ嘉祥堅實ノ意ヲ寓ス、録倉陸堂、小林作太郎ヨリ借用ス

御次室 三

一 御座所、モト同一程度、六サニシテ、巖ニ五葉ノ松同、小林作太郎ヨリ借用、モノ

一 蘇鐵ニシテ本艦昭和三年大禮觀艦式御召艦ノ際用ヒタルモノニシテ横須賀中區茶道某ヨリ借用セルモノ

一 菊ヲ巖ニ根ヲ盤セ盆栽ノ仕組ニ作リタルモノニシテ菊造リノ達人港務部、附兵曹長黒相昇ヨリ出来榮殊ノ外優良ノ故ヲ以テ同副官ヲ經テ特ニ申出アリタルモノ

二 右ノ外左記ノ通借用勅任官以上ノ私室親勅任官公室常侍管候所備アリ

(一) 水交社ヨリ 一個

(二) 横須賀平坂上 三船省ヨリ白竹外四個

(三) 横須賀中區植木職茶道某ヨリ十三個

内大臣御前 牧野伸顯	宮内大臣 一木喜徳郎	侍從長 奈良武次	侍從長 鈴木貞郎	侍從長兼掛 西園寺八郎	侍從御前 甘露寺受長	同子爵 海田幸吉	宮内事務管 木下道雄
宮内屬 △半井貞成	同 △宮沢勝藏	主膳 △本橋虎雄	同 △猪又四郎	膳手 山崎喜平	同 鈴木武雄	同 内山利祿	宮内屬 小野武晴
大膳課 △寺山令三	厨司 △室換郎	同 根本良助	同 鮎沢弥次	同 物田新郎	同 山崎寅吉	同 中嶋傳節	同 高森貞一
内閣書記官 △横溝光暉	同 △島田新勢	内閣屬 △竹内隆二	同 △山屋貞一	内閣雇 △紙屋秀人	同 △足立清		

親勅奏信管
判任官同待遇
雇員
外

四 逸見波止場侍合 二個
三 却相伴、際食卓飾用上テ、蘭、種類準備方打合セ、際宮内信
ヨリ却話アリ、幸從來艦長室ヨリ、蘭、種類三個、方年青ニ
個(水交社ヨリ借用モ)ヲ用意セリ、

供奉員其他人名表

備考氏名ノ上。印ニ於後公印ハ返シ上無印ハ在返候奉花毛トス	侍醫	高橋信	同	田端恒信	藥	手	大谷重造	海軍大臣	安保大將
	侍從武官	出光重衛	内舍人	依田俊尚	同	横田巖	大臣書寫	小林中佐	
	同	住山徳太郎	同	戸田嘉親	仕	鈴木佐和	内務書寫	堀江少佐	
	侍從子爵	黒田長敬	同	金子藤三郎	同	秋山武雄	侍從武官		
	侍醫	松永琢磨	同	川越憲雄	同	中村義充	侍從武官	青木新	
	侍從武官	阿南惟幾	同	川越了介	同	谷山寅助	侍從武官		
	内務書寫	太田嘉次郎	同	加藤次郎	同	人	發給書寫	一名	
	侍從武官	所尾重基	同	佐々木九一	厨	富田鏡吉			
	侍從公爵	山縣有道	同	信國鉄藏	同	長興源吾			
	侍從職掛	阪口鎮雄	同	吉木仁	同	松本菊藏			
主膳官	野村利吉	内務書寫	竹田錫吉	同	谷津由喜				
内務書寫	小野全雄	海軍屬	渡辺重吉	同	大正末吉				

1561

四

御相伴

人

八日
九日

十日

十九日

横山	坂田	龜山	冷水	鈴木	土井	田代	松末	山口	阿部	榛名	榛名	各簿
主計長	副砲長	水雷長	水軍醫長	機関長	運用長	航海長	作長	通信長	砲術長	副長	艦長	

五 御下賜品目録

一 軍艦榛名 御紋附銀製花瓶 一個

一 榛名求員同 御下賜金壹千圓

一 榛名特務員同 御下賜金四百圓

一 御召艦軍樂隊員 御下賜金七十五圓

一 榛名艦長 御紋附銀製煙草入 一個

一 榛名副長 御下賜金五十圓

一 榛名求員同 御下賜金貳十五圓

御紋附紙卷莖七千言十五本



横須賀鎮守府日令第二六七號

昭和六年十月三十日

横須賀鎮守府司令長官 大角 岑 生

天皇陛下陸軍特別大演習 御統裁ノ爲熊本縣下へ 行幸鹿兒
島へ 御立寄被仰出來十一月八日軍艦榛名ニ 御乘艦横須賀
軍港 御出港十一月二十一日横須賀軍港 御入港 還幸被爲
在ニ付當地ニ於ケル儀禮其ノ他ニ關シ左ノ通心得ベシ

行幸ノ際

一、御發著割左ノ如シ

十一月八日(日)

午前九時五分	宮城	御發輦
同 九時十五分	東京驛	御發車
同 十時三十分	横須賀驛	御著車

午前十時三十五分 逸見埠頭ヨリ 御乗艇

同 十時四十五分 軍艦榛名ニ 御乗艦

正 午 横須賀軍港 御出港

二、横須賀驛逸見埠頭間 御徒歩御列左ノ如シ

鎮守府副官 鎮守府司令長官 侍從 寶劍侍從奉仕

(内舍人) 聖上 近衛將校 (内舍人) 近衛將校

神璽侍從奉仕

侍從長

供

侍從武官長

奉高等官其ノ他

三、逸見埠頭御召艦間海上供奉序列左ノ如シ

御先導艇

港務部内火艇

御召艇

一號長官艇

第一供奉艇

工廠内火艇

第二供奉艇

赤城内火艇

關係所轄長ハ参加各艇ニ指揮ヲ附シ御召艇ニハ天皇旗及特別敷物ヲ、第一供奉艇ニハ將官用敷物及艦長用敷物ヲ、第二供奉艇ニハ艦長用敷物及士官用敷物ヲ、御先導艇ニハ艦長用敷物ヲ用意シ當日午前十時二十分迄ニ逸見埠頭ニ派遣シ横須賀海軍港務部長ノ命ヲ承ケシムベシ

四、横須賀海軍港務部長ハ御先導艇ニテ逸見埠頭ヨリ御召艦迄御先導スベシ

五、當日午前十時ヨリ同十時四十五分迄逸見上陸場ノ一般使用ヲ禁ズ

伺候式

六、御召艦 御乗艦後鎮守府幕僚、所在勅任官、同待遇者並ニ所轄長(總代)ハ御召艦ニ奉伺ス

ベシ

拜謁ヲ賜ハル本府諸官左ノ如シ

單獨拜謁

鎮守府司令長官

所在勅任官、同待遇

榛名艦長

第八驅逐隊司令

列立拜謁

鎮守府幕僚(勅任官ヲ除ク)

所轄長 (總代)

軍艦榛名奏任官

第八驅逐隊奏任官

滿艦飾

七、在港艦船ハ當日午前八時滿艦飾(艦飾)ヲ行ヒ御召艦出港後首席指揮官ノ乗艦(長門)ニ倣ヒ

之ヲ撤スベシ

禮砲及敬禮

八、御召艦ハ 御乗艦ノ際海軍禮式令第六十三條ノ敬禮及海軍禮砲令第二十四條ノ皇禮砲ヲ施行ス

九、第一區外ニ在ル軍艦ハ左ノ時機ニ於テ海軍禮砲令第二十三條及第二十四條ノ皇禮砲ヲ施行スベシ

(イ) 御著ノ際

横須賀在泊艦船ニ在リテハ御召列車第七號隧道ヨリ吉倉ニ出現セシ時(首席指揮官乗艦「長門」ニ倣ヒ)

長浦在泊艦船ニ在リテハ御召列車田浦驛ヲ通過ノ時(長浦在泊首席指揮官ノ乗艦ニ倣ヒ)

(ロ) 御召艦ニ 御乗艦ノ際(御召艦ニ倣ヒ)

(ハ) 御召艦出港ノ際(首席指揮官ノ乗艦「長門」ニ倣ヒ)

十、在港艦船ハ御召艦(艇)附近通過ノ際海軍禮式令第六十五條又ハ同令第七十九條ニ依ル敬禮ヲ行フベシ、但シ長浦在泊艦船ニ在リテハ御召列車田浦驛通過ノ際施行スベシ

奉迎式

十一、本職ハ幕僚ヲ隨ヘ横須賀驛構内ニ奉迎ス

十二、所在勅任官、各所轄長、高等官三等及勳三等ノ海軍高等官ハ横須賀驛構内ニ奉迎スベシ
 十三、前記以外ノ武文官竝ニ兵ハ艦船部隊ニ在リテハ現在員ノ約半數其ノ他ハ勤務ニ差支ナキ
 限り成ルヘク多數所定時刻三十分前迄ニ横須賀方面ニ在リテハ横須賀驛附近別圖指定ノ位
 置ニ、田浦方面ニ在リテハ田浦驛構内ニ整列奉迎スベシ但シ下士官兵ニハ各部ニ於テ准士
 官以上ノ指揮者ヲ附スベシ

十四、前號下士官兵ノ指揮官ヲ横須賀方面ニ在リテハ海軍中佐武田盛治(砲校)ニ、田浦方面ニ
 在リテハ海軍中佐廣瀨末人(水校)ニ指定ス

所轄長ハ前號下士官兵ノ員數ヲ指揮者ノ官氏名ト共二十一月四日迄ニ指揮官ニ通知スベシ
 十五、儀仗兵ノ編制ハ別表第一ノ如シ

儀仗兵指揮官ヲ海軍大佐池田敬之助(金剛)ニ指定ス

儀仗兵ハ所定時刻三十分前迄ニ別圖指定ノ位置ニ就クベシ

服 装

十六、儀禮關係者ノ服裝ハ左記ニ據ル

軍人ハ通常禮裝 最上級勳章一個及記章全部

文官ハ相當服

滿艦飾撤去後當日ノ服裝ニ復ス

其ノ他

十七、海軍工機學校長、横須賀海軍航空隊司令ハ各機動艇(内火艇)一隻ニ指揮ヲ附シ將官用敷物ヲ用意シ當日午前十時二十分迄ニ逸見埠頭ニ派遣シ御召艦奉伺者ノ乗用ニ供スベシ

還幸ノ際

一、御發著割左ノ如シ

十一月二十一日(土)

午後一時三十分頃	横須賀軍港	御入港
同 二時十五分	御退艦	御乗艇
同 二時二十五分	逸見埠頭	御上陸
同 二時三十分	横須賀驛	御發車
同 三時四十五分	東京驛	御著車

還幸

二、海上供奉序列竝ニ御徒步御列ハ行幸ノ際ニ同ジ

但シ海上供奉序列參加各艇ハ當日午後一時迄ニ逸見埠頭ニ派遣シ横須賀海軍港務部長ノ命ヲ承ケシムベシ

三、横須賀海軍港務部長ハ御先導艇ニテ御召艦ヨリ逸見埠頭迄御先導スベシ

四、當日午後一時四十五分ヨリ同二時三十分迄逸見上陸場ノ一般使用ヲ禁ズ

伺候式

五、御入港後ニ於ケル伺候式ハ 行幸 御乗艦ノ際ニ同ジ

満艦飾

六、在港艦船ハ首席指揮官ノ乗艦(長門)ニ倣ヒ當日午後零時三十分満艦飾(艦飾)ヲ行ヒ同二時四十五分ノヲ撤スベシ

禮砲及敬禮

七、御召艦ハ 御退艦ノ際海軍禮式令第六十四條ノ敬禮ヲ行ヒ海軍禮砲令第二十四條ノ皇禮砲ヲ行フ

八、第一區外ニ在ル軍艦ハ左ノ時機ニ於テ海軍禮砲令第二十三條及第二十四條ノ皇禮砲ヲ施行スベシ

(イ) 御召艦入港ノ際 (首席指揮官ノ乗艦「長門」ニ倣ヒ)

(ロ) 御退艦ノ際 (御召艦ニ倣ヒ)

(ハ) 還御ノ際

横須賀在泊艦船ニ在リテハ御召列車横須賀驛ヲ發スル時(首席指揮官ノ乗艦「長門」ニ

倣ヒ)

長浦在泊艦船ニ在リテハ御召列車田浦驛通過ノ時(長浦在泊首席指揮官ノ乘艦ニ倣ヒ)
九、在港艦船ハ海軍禮式令第六十五條又ハ同令第七十九條ニ依ル敬禮ヲ行フコト 行幸ノ際ニ

同ジ

奉送式

十、本職ハ幕僚ヲ隨ヘ横須賀驛構内ニ奉送ス

十一、所在勅任官、各所轄長、高等官二等及勳三等ノ海軍高等官ハ横須賀驛構内ニ奉送スベシ

十二、前號以外ノ武文官竝ニ兵ノ奉送ニ關シテハ 行幸奉迎ノ際ニ同ジ但シ横須賀方面ニ在リ

テハ別圖指定ノ位置ニ就クベシ

十三、前號下士官兵ノ指揮官ヲ横須賀方面ニ在リテハ海軍中佐千葉成男(海兵團)ニ、田浦方面

ニ在リテハ海軍中佐左近允尙正(通校)ニ指定ス

所轄長ハ前號下士官兵ノ員數ヲ指揮者ノ官氏名ト共ニ十一月十五日迄ニ指揮官ニ通知スベシ

十四、儀仗兵ノ編制ハ別表第二ノ如シ

儀仗兵指揮官ヲ海軍大佐曾我清市郎(木曾)ニ指定ス

儀仗兵ハ所定時刻三十分前迄ニ別圖指定ノ位置ニ就クベシ

服 装

十五、儀禮關係者ノ服裝ハ 行幸ノ際ニ同ジ

其 ノ 他

十六、海軍工機學校長、横須賀海軍航空隊司令ハ各機動艇(内火艇)一隻ニ指揮ヲ附シ將官用敷物ヲ用意シ當日午後一時迄ニ逸見埠頭ニ派遣シ御召艦奉伺者ノ乗用ニ供スベシ

(終)

天皇陛下行幸儀仗兵編制表

考 備	儀 仗 隊													本 部			部 隊									
	中 隊						大 隊 本 部							軍 樂 隊	指 揮 官 附	參 謀	指 揮 官	職 名	官 階 員 數	所 屬						
	小 隊			指 揮 小 隊			中 隊 長	指 揮 小 隊			大 隊 副 官	大 隊 旗 手	大 隊 長								少 佐	大 佐	大 佐			
	列 兵	分 隊 下 士 官	小 隊 長 傳 令	列 兵	分 隊 下 士 官	小 隊 長		列 兵	分 隊 下 士 官	小 隊 長				列 兵	分 隊 下 士 官	小 隊 長	大 隊 副 官	大 隊 旗 手	大 隊 長	少 佐				大 佐		
一、大隊ハ指揮官之ヲ編成ス 二、准士官以上ノ官氏名ヲ速ニ指揮官ニ通知スベシ	水	兵	水	水兵 (特務中(少)尉 兵曹(少)尉 ヲ含ム)	兵	兵	大	水兵 (特務中(少)尉 兵曹(少)尉 ヲ含ム)	兵	兵	兵	大(中)尉	兵	少	下士官	尉少佐又ハ 官ハ	大佐	官階員數	所屬	金	剛	五十鈴	殿	島	海兵團	
	二八八	四八	一二	二四	六	三	三	八	二	一	一	一	一	一	一	適宜	一	一								
	九六	一六	四	四	一六	四	二	二								宜										
	二四	四	一	一	八	二	一	一																		
	二四	四	一	一																						
	一四四	二四	六	六					八	二	一	一	一	一	一											

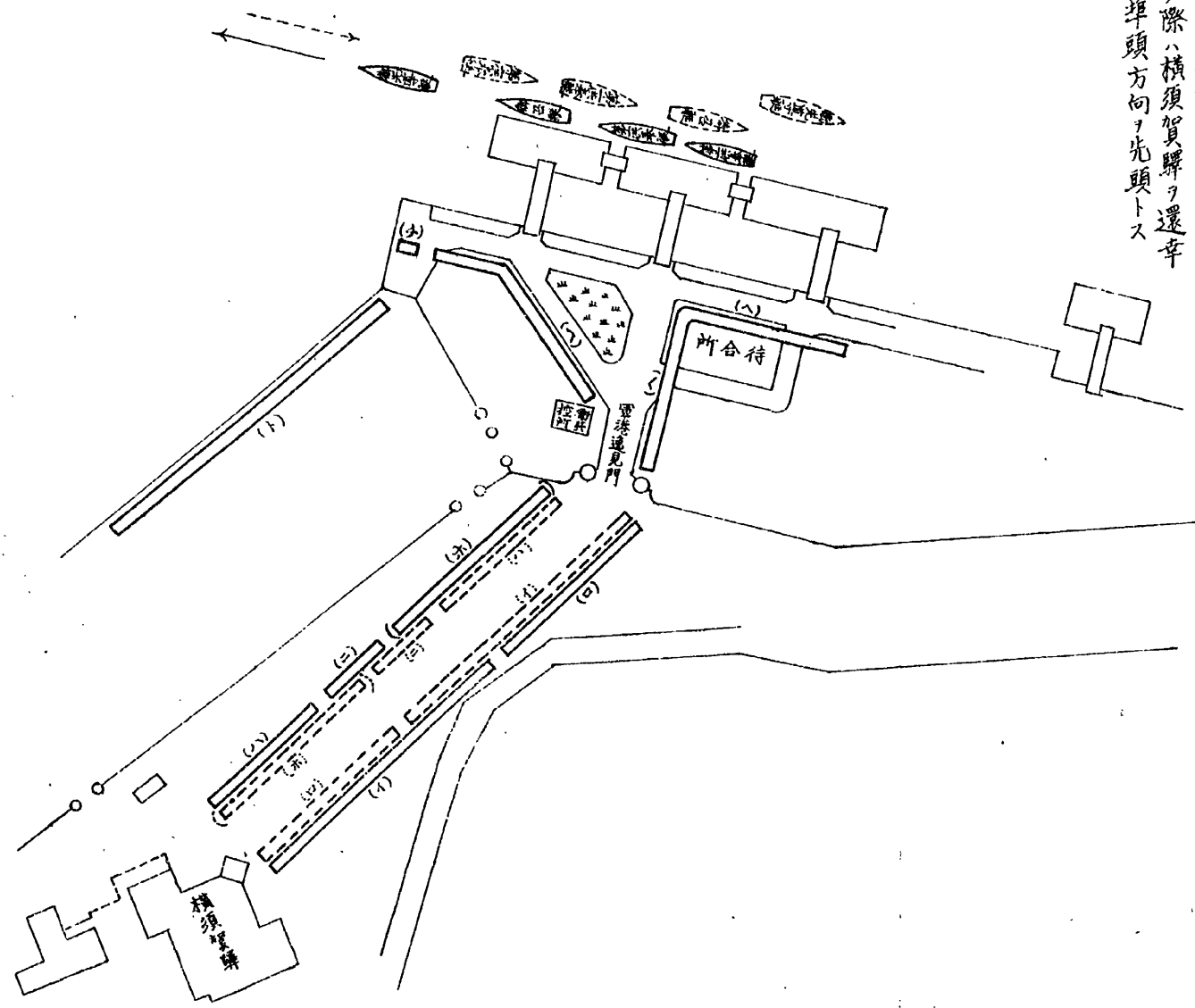
天皇陛下還幸儀仗兵編制表

考 備	儀 仗 隊													本 部				部 隊				
	中 隊						大 隊 本 部							軍 樂 隊	指 揮 官 附	參 謀	指 揮 官	職 名				
	小 隊			指 揮 小 隊			中 隊 長	指 揮 小 隊		大 隊 旗 手	大 隊 副 官	大 隊 長	大 隊 副 官						大 隊 長	指 揮 官	官 階 員 所	
	列 兵	分 隊 下 士 官	小 隊 長 傳 令	小 隊 長	列 兵	分 隊 下 士 官		中 隊 長	列 兵					分 隊 下 士 官	大 隊 副 官	大 隊 長	大 隊 副 官	大 隊 長				指 揮 官
一、大隊ハ指揮官之ヲ編成ス 二、准士官以上ノ官氏名ヲ十一月十五日迄ニ指揮官ニ通知スベシ	水	兵	水	中(少)尉 (特務中(少)尉 兵曹長)	水兵(掌信號兵 ヲ含ム)	兵	兵	兵	大	水兵(掌信號兵 ヲ含ム)	兵	特務中(少)尉 (兵曹長)	兵	大(中)尉	少佐	下士官兵	尉少佐又ハ 官ハ	大佐	官階員所	屬	木曾山城一驅一掃防備隊海兵團	
	二八八	四八	一二	一二	二四	六	三	三	三	八	二	一	一	一	一	適宜	一	一				
	二四	四	一	一						八	二	一	一	一		適宜						
	九六	一六	四	四	八	二	一	一														
	四八	八	二	二	八	二	一	一														
	二四	四	一	一	八	二	一	一														
	九六	一六	四	四																		

天皇陛下奉迎奉送位置圖

- (イ) 海軍儀仗隊
- (ロ) 陸軍儀仗隊
- (ハ) 海軍准士官以上及文官
- (ニ) 陸軍准士官以上
- (ホ) 市代表者
- (ヘ) 海軍下士官兵
- (ト) 陸軍下士官兵
- (チ) 寫真班

(註) 一、総て點線ハ還幸ノ際ヲ示ス
 二、行幸ノ際ハ横須賀驛ヲ還幸
 ノ際ハ埠頭方向ヲ先頭トス



横領第一七八九號

昭和六年十一月四日

横須賀鎮守府副官

横須賀鎮守府日令第二六七號中左ノ通改メラル

行幸ノ際

十四、中「海軍中佐武田盛治(砲校)」ヲ「海軍中佐鈴木長藏(砲校)」ニ

(終)